

今後八〇年間の構想を検討する時期

全国各地に発生する さまざまな難民

中東地域をはじめ、世界各地で住居も食料も満足に入手できない難民と名づけられる人々の様子が連日のように報道されている。その人数は中東をはじめ全体で世界の人口の約一・五％に相当する一億二二一〇万人にもなると推定されている。そのような不幸は日本には存在しないが、一見すると裕福な日本の社会にも難民が存在する。それは買物難民、医療難民、交通難民など、日常生活で深刻な不便に直面している人々である。

日本の人口は明治時代初期には三四八〇万人であったが、それ以後、太平洋戦争中を例外として増加してきた。しかし二〇〇八年の一億

二八一〇万人を頂点にして、以後は年ごとに減少している。これも問題であるが、減少が全国均等ではなく偏在しているという重大な課題がある。都道府県で増加しているのは東京と埼玉のみ、全国の一七四一の市区町村では一一％の一八七は増加しているものの、八九％は減少しはじめている。

社会が対処する必要があるさらなる人口問題は、高齢者層の増加である。六五歳以上の人口の割合は一九五〇年には五％程度であったが、現在では約三〇％に増加し、二五年後の二〇五〇年には三七％を超えるると推定されている。主要な要因は平均寿命の延長で一九五五年には女性が六七・八歳、男性が六三・六歳であったが、現在ではそれぞれ八七・一歳と八一・一歳と大幅に延

長し、女性は世界一位、男性は六位という長寿社会である。

この長寿人口は津々浦々と表現できるほど全国に分布してさまざまな問題に直面しているが、その代表が鉄道やバスなど公共交通手段の減少による移動難民になることである。昨年二月に民間団体が全国のさまざまな規模の都市の約二万六〇〇〇人を対象に実施した調査では、直近の一ヶ月間に移動困難を経験した比率は地域や年齢で大差なく六人に一人の約一七％になっており、社会全体の課題になっていることを明示している。

食品購入の利便を対象にした調査でも同様の結果である。農林水産省が自宅から五〇〇メートル以内に食品店舗が存在しない六五歳以上の住民を「食料品アクセス困難者」と命

名して調査し、二〇二〇年には九〇四万人になると発表した。これは全国の六五歳以上人口の二六％に相当し、四六％は三大都市圏内に生活している住民という深刻な事態である。最近では「フード・デザート（食料砂漠）」という言葉さえ登場している。

過疎高齢地域を 支援する活動

当然、各地でさまざまな対策が登場しているが、草分けは有機野菜などの食品の宅配をする「オイシックス・ラ・大地」の子会社「とくし丸」が運営している移動スーパー「とくし丸」である。出版会社の創業社長が、徳島の山奥に生活し買い物に苦労している母親を支援する目的で二〇一二年に開始した。小型車両に食品など約四〇〇品目を搭載し、過疎地域で販売している。現在は約一二〇〇台の車両で全国の一八万人にサービスを提供している。

静岡県浜松市を本拠とする遠州鉄道は傘下に三五店の食品スーパー、

一店のドラッグストアを経営しているが、二〇二二年から移動スーパーを運営しはじめた。約四〇〇種の総菜や雑貨を搭載した小型販売車両を沿線の一〇地域に派遣して商品の販売をすると同時に、地方自治体と協定を締結して地域の高齢者宅の見守りも実施し、地域の生活維持に貢献している。

紹介した二例は過疎地域で食品や日用雑貨の購入を手助けするサービスであるが、公共交通手段が消滅した地域の移動を支援する事業も登場している。兵庫県養父市では、中心から遠隔の山間地域でバスなどの公共交通がなく、高齢住民の移動を確保する必要がある。そこでタクシー会社やバス会社の参加したNPO法人を設立し、市民ドライバーによるライドシェアを用意して、タクシー料金の七割程度で移動できるサービスを開始している。

これからの八〇年間の 検討の時期

江戸時代の一七八九年からの寛政

時代から約八〇年が経過した一八六八年に明治維新となり、そこから約八〇年が経過した一九四五年に太平洋戦争が終結した。さらに約八〇年が経過したのが現在である。社会の変遷に厳密な数的規則が存在するわけではないが、八〇年間は安定した社会が維持される限界の年数かもしれない。そのような視点からすれば、現在は太平洋戦争後の八〇年を総括して、新規の日本をめざす時期である。

その傍証として有史以来、増加してきた日本の人口は減少に転換し、年齢構成も若者世代より高齢世代が優勢になる構成に移行している。さらに戦後、ひたすら成長してきた経済も停滞しており、東京から大阪にかけての太平洋岸に集中してきた発展も見通せない時代になっている。今回紹介したさまざまな難民の登場も時代の転換を証明する現象である。そのような視点から今世紀中の約八〇年の目標を構想する時期である。

東京大学名誉教授
つきお よしお
月尾嘉男



昭和一七（一九四二）年生まれ。東京大学工学部卒業。工学博士。コンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策等を研究することともに、全国各地で私塾を主宰し、地域の有志と共に環境保護や地域計画に取り組む。